

【8月の気象】

▷ 8月は太平洋高気圧に広く覆われて晴天の暑い日が続きます。特に上旬は年間で最も気温が高くなる時期です。農作物の管理や熱中症に十分注意してください。気象台では、当日または翌日の最高気温が35℃以上になることが予想される場合は「高温注意情報」を公表し、熱中症への注意を呼びかけます（当日分は松山地方気象台が発表し、翌日分は高松地方気象台が四国地方を対象に発表）。

高温注意情報の発表状況はこちら → <https://www.data.jma.go.jp/fcd/yocho/data/kouon/>

▷ 強い日射によって地面付近の空気が暖められて上昇気流が強まると、積乱雲（入道雲、雷雲）が発生・発達し、局地的に急な強い雨や落雷、竜巻などの激しい突風をもたらすことがあります。落雷や竜巻などの激しい突風が予想される時は、気象台では雷注意報や竜巻注意情報を発表して注意を呼びかけます。気象情報で「雷を伴う」「大気の状態が不安定」「竜巻などの激しい突風」といった言葉が使われていたら、天気の変化に注意してください。雷の音が聞こえたり、黒い雲が近づいたり、急に冷たい風が吹いてきたときは、発達した積乱雲が迫っているサインです。屋外にいる場合は、頑丈な建物など安全な場所へ速やかに避難してください。河川や水路等、急な強い雨による増水にも注意が必要です。

降水や積乱雲の動向(降水・雷・竜巻発生確度)はこちら → <https://www.jma.go.jp/jp/radnowc/>

竜巻注意情報の発表状況はこちら → <https://www.jma.go.jp/jp/tatsumaki/>

▷ 8月は年間で最も多く台風が発生し、日本へ接近する時期です。平年値（1981～2010年）によると、8月は、台風の発生数が5.9個、日本への接近数が3.4個、四国への接近数が1.0個です。台風になる前の熱帯低気圧の発生情報や台風情報を積極的に入手し、早めの台風対策にお役立てください。

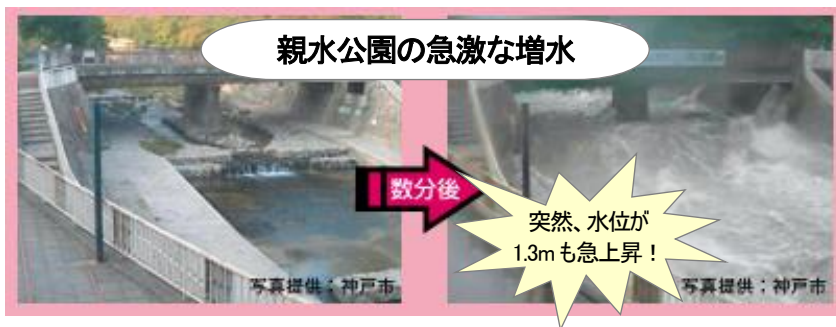
熱帯低気圧の発生情報や台風情報はこちら → <https://www.jma.go.jp/jp/typh/>

台風に関する詳細な説明はこちら → <https://www.jma.go.jp/jma/kishou/knownow/typhoon/index.html>

【気象用語】「急な強い雨」とは

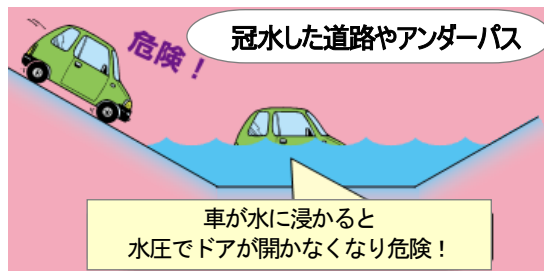
雷注意報では、落雷や竜巻などの激しい突風のほか、「急な強い雨」に注意するよう呼びかけます。予報用語によると、1時間雨量が20mm以上30mm未満の雨を「強い雨」といいます。急な強い雨は、積乱雲の接近や発達によって発生するもので、夕立のような突然の「どしゃ降り」といったイメージがあります。

ここで注意すべきは、たとえ大雨や洪水の注意報や警報が発表される気象状態でなくても、上流で降った急な強い雨で、河川や下水道などがごく短時間で増水し、レジャーや作業中の水難事故が全国各地で発生していることです。なお、同様の意味を持つ用語に「局地的（な）大雨」があります。

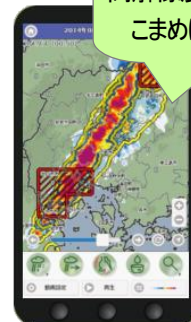


たとえ晴れていても、川の上流で降った急な強い雨によって、ごく短時間で川が増水することがあるため、雨が降り始めたり、空や川の異変を感じたりしたら、すぐに水辺から離れる必要がある。

冠水した道路では、側溝が見えずに転落したり、マンホールのふたが外れたりしている場合もあり危険。アンダーパスでは、水没のおそれ。



雨の状況や見通しは高解像度降水ナウキャストでこまめにご確認ください。



※ここに掲載した図は、気象庁発行のリーフレット「[急な大雨・雷・竜巻 ナウキャストの利用と防災](#)」の一部を転載したものです。